

そう考えると、自然に先祖に
 対する感謝が生まれてくるので、
 そこで初めてお墓に手を合わせ
 るわけです。



12/31



令和5年 前期

活動報告

←「新年祈禱会」は正式には「新年大般若祈禱」といい、「大般若経」の経文を読むことにより、その功德をもって、**世界**の平和や、**各参列者の平安**などをご祈禱申し上げる法会のことです。今ここで生きている我々自身について、**一年の幸福を祈る内容**です。

↑ 11時45分より除夜の鐘を撞きはじめました。
通常は修行を積んだ僧侶が鳴らすものなのですが、大晦日の除夜の鐘には一般の方にとっても「**苦しみや煩悩を断ち切る**」「**ご利益を受けることができる**」と言われているため、年末の儀式として広まったと考えられます。鐘を撞いて頂いた方には**干支のお守り**をお配りしております。今年も是非お越し下さい。



2/3



1/18

←毎年1月18日に、当山境内にある観音堂の供養を雲林寺梅花講の皆様と共にしております。
当山雲林寺の敷地内にある観音堂は正式には「**造道(つくりみち)観音堂**」といい、**馬頭観音**が堂内に安置されています。
当山の造道観音堂は**三原三十四観音札所**の一番に属します。

←雲林寺節分会は、先代より100年以上続いており、この法灯を消してはいけなく、と思っている行事の1つでもあります。
「鬼は外、福は内」**鬼は人間の中潜む煩惱であるのかもしれない。**
「鬼を追い払おうとするのではなく、鬼の心が常に私の中にあるんだと受け入れることが大切」とお釈迦様は説きました。
煩惱に向き合いながら生きる。
仏教では、自分の欲と向き合い、正しく制御することで、人を困らせる煩惱に打ち勝ち、幸せな人生を切り開けるとしています。

↓午後3時30分より、**天明三年浅間山噴火物故者供養**がございました。梅花講が「**噴火供養御和讃**」をお唱え致しました。

あの日あの時あの災 噴火は焼やきしこの町に
栄ゆる今日は帰えれども 帰らぬ生命いかにせん

泥流による犠牲者の数は長野原で約240名。雲林寺の過去帳に犠牲者のお名前が記されております。
災害で亡くなられた方々の苦しみや恐怖、無念さは、想像もつきません。また、生きていく希望も失った人々はどんな気持ちで毎日をご過ごしていたのでしょうか。「**帰らぬ生命いかにせん**」という歌詞の重みを感じずにはられません。



8/5



4/27

↑「大般若会」という法要は『**大般若波羅蜜多經**』という600巻もある長いお経をいっせいに勢いよくパラパラと風になびかせて**転読**します。その際に巻き起こる風は 般若の梵風(ぼんぷう)と呼ばれ、風に当たれば**無病息災**になると伝えられています。本年は住職の永平寺修行時代の仲間に協力して頂き修行致しました。

参道の改修工事をしました



→ 旧雲林寺参道

お寺の門から本堂までの道を参道といいます。お寺の本堂は、敷地の奥まった場所にある場合が多く、参道から少し距離がある場合も少なくありません。

なぜそのような立地になっているかというと、お寺は祈りの場であると同時に瞑想の場であり、修行の場でもあるからなのです。

敷地に入ってから、本堂という聖域に至るまで、ゆっくりと歩くことで気持ちを切り替えることができます。

参道が与えてくれるのは、日常の喧騒から離れ、静かに自己と向き合う時間です。

ではなぜ参道というのでしょうか？

参道は産道という説があります。

産道を通して、お母さんのお腹へ戻るが如く、ご本尊様のもとへ行く。ご本尊様の前で世間的な

「地位」「名誉」

を全て捨てて、一度「無」になり、また産道から生まれて帰っていく。これが参道の隠された意味です。

齋木七郎石材本家、齋木三男様監修のもと、昨年の打ち合わせから約半年をかけ、今年六月に無事完成しました。

約二十センチ×三センチ。袖石は中津川石、張り石は県産材安産岩です。一枚一枚、型を取りながら手道具で作られております。是非、ご覧下さい。



齋木三男氏

護持会たより

令和五年六月二十七日、草津温泉ホテル櫻井において、第十回雲林寺護持会通常総会が開催されました。総代・世話人総数四十一名、出席者二十六名、委任状十五名、以上の出席により通常総会が成立されました。

前号でもご紹介させて頂きましたが、総代に田村俊樹様が選任されました。北軽井沢世話人に田島敏治様、須原伸雄様、大津世話人に小林弘様が新任されました事を報告致します。



田村俊樹様



田島敏治様



須原伸雄様



小林 弘様

令和4年度雲林寺護持会収支報告

(収入)	(単位: 円)
前年度繰越金	1,169,635
会費(町内世話人集金)	1,321,000
会費(町外口座着金)	472,000
雑収入 利息	13
合計	2,962,648
(支出)	
宗務費	607,760
通常総会	86,250
役員総会	0
梅花流助成金	100,000
慶弔費	109,624
事務費用	10,990
雑費	0
積立金	1,000,000
予備費(テント購入)	189,220
合計	2,103,844
2,962,648円-2,103,844円=858,804円(次年度繰越)	
積立金: 6,000,000円	



十月九日(月) 草津カントリークラブ

護持会主催の親睦ゴルフコンペを今年も開催致します。今年も檀信徒皆様の御参加お待ちしております。

梅花流たより



今年五月二十四日より二日間、コロナ禍により開催中止を余儀なくされていた梅花流全国奉詠大会が四年ぶりに東京ガーデンシアターを会場に開催されました。少しずつ日常を取り戻してきたとはいえ、未だ閉塞感拭えませんが梅花大好きな講員様、御寺様、宗務所職員皆様等バス三台にて早朝の出発となりました。今年度は東日本大震災から十二年、犠牲者の十三回忌を迎え、「お誓い」は被災された東北三県の講員様に挙唱して頂きました。

大会テーマは復興、いつものように開会式法要が終わり、いよいよ雲林寺講の登壇奉詠です。今年度は各管区を八組に分け、群馬県は関東管区内梅花講として、五名が登壇しました。指名された寺の代表として、我が雲林寺講の篠原禮子様が出ましたが、このような名誉なことにも至っても篠原様はいたって平常心。さすがにキャリアを痛感させられたのは私だけではないと思います。第四部の清興では、バリトン歌手の平林龍様、ソプラノ歌手の北野里沙様による、梅花流二部合唱曲をピアノ、ヴァイオリンの調べにのせて聴かせて頂きました。他、クラシックからポップスと素晴らしい歌声を披露して頂き、心行くまで音楽の奥深さを堪能できました。

夕食は銀座シックスでフランス料理のフルコースでした。その後、福引き会が行われ、雲林寺講の皆様は当選者が続出し、名前を呼ばれる度に歓声が上がり、最後まで大いに盛り上がった二日間でした。

雲林寺梅花講では月2回、二時間程度本堂にて練習会を行っております。(参加費無料)

練習の成果は、お盆の大施食会をはじめ、年に七、八回程、寺の行事や梅花流大会等で発表します。初心者の方も参加できます。是非お気軽に見学に来られますか？お待ちしております。

轟 美代子



感謝録

本年六月、八月境内の整備をして頂きました。お陰様で綺麗になりました。ありがとうございました。

唐澤明雄様	佐藤良平様
岩木夏雄様	湯本茂様
酒井保治様	野口芳夫様
水出耕一様	一場茂樹様

令和五年後期予定

九月二十日(二十六日) 秋彼岸
全檀信徒様の彼岸法要を本堂にて行います。

九月二十一日 忠霊塔供養

雲林寺敷地内にある忠霊塔は忠誠心を持ち戦争に出兵した戦死者の霊を後世まで称え続けることを象徴するため建設された塔です。長野原町の戦没者を供養します。

十月十九日 梅花流群馬県大会
昌賢学園まえばしホールにて日頃の練習の成果を発表します。

十二月八日 成道会

成道会(じょうどうえ)は、お釈迦様が悟りを開いた事を記念して行われる法要です。

十二月三十一日 除夜の鐘

境内をライトアップし、午後十一時四十五分より鐘楼堂の鐘を撞き始めます。干支の「辰」の根付をお配りします。

心とからだの
仏(ホッと)ステーション
きっさこ

喫茶去

日時：9月23日(土)
15時～

場所：雲林寺
会費：無料

お悩み事や困り事の傾聴
Café ホットにこやかになっていただくひろば 彼岸の中日、お気軽にお越し下さい。

